



# 東アジア経営学会国際連合 産業部会会報

International Federation of East Asian Management Associations  
The Newsletter of IFEAMA Industry Section

## 第15号

2020年4月

## 2021年ロシア大会へ向けて

文 望月 邦彦(産業部会会長)

Dear Colleagues,

we had a successful year behind us, marked by the 15th IFEAMA Conference in Kyoto and 100th Anniversary of State University of Management, and we would like to thank all of you for your cooperation.

Warmest wishes for a happy and healthy 2020,

all the best for the New Year to you and your families.

Sincerely yours,

Gennady Azoev  
Ekaterina Sumarokova

上記の年賀状のメッセージ翻訳

『昨年は第15回 IFEAMA 会議が成功を収め、また国立経営大学が100周年を迎えることが出来、大変良い年となりました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。  
2020年が素晴らしい年になることを期待し、皆様と皆様のご家族のご多幸をお祈り申し上げます。』

Gennady Azoev  
Ekaterina Sumarokova

東アジア経営学会国際連合に加盟するロシアの Moscow State University of Management (ロシア政府高官、財界、要人の子弟が多く学ばれている大学です)の Azoev 先生と Sumarokova 先生から年賀状を頂きました。昨年の京都大会役員会で次回第16回大会がロシアで開催することが決まりました。そのプレゼンで学術部会に加え、特に産業部会の充実を図る旨、力強い説明がありました。

夕方開かれたレセプションでもロシアの先生方から産業部会に大いに関心があり、参加企業候補の名前をいくつも挙げ充実したものになりたいと抱負を語られ、期待しておいて下さいと言われました。

明年 ロシア モスクワで開催されます大会に、是非皆様ご参加をお考え下さい!



### 『自動車産業における部品国産化ライフサイクル』

塩地 洋氏(京都大学教授、東アジア経営学会国際連合会長)

【本稿はもともと今年3月7日に京都大学法経7番教室において予定されていた塩地教授の最終講義の概要を示すものとして事前に受領していたものである。残念なことに、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ目的から最終講義が延期され、結果として最終講義の概要を予告するものとなった。部品国産化率を高める指向はアジアの工業化に際して各国で見られる事例である。長年の理論研究と現地調査を踏まえた塩地教授の研究成果を産業部会会報のコンテンツとさせて頂くことに謝意を表したい。(文：産業部会副会長 貫 隆夫)】

最終講義の課題は、自動車産業において部品の国産化に伴うコスト構造の変化を明らかにすることを通じて、部品国産化ライフサイクルの各局面におけるコスト・カーブの有り様を描くことにある。

現在自動車生産は先進国のみならず新興国にも広がっているが、他の産業、たとえば家電エレクトロニクス産業と比較すると自動車産業では先進国のコスト競争上の優位がなおも存在する。新興国にも広範に自動車生産拠点が形成されているが、それはその国への完成車輸出が高関税のために制約を受け、現地で生産することが強要されている場合が多い。

では何故自動車産業においては、先進国のコスト競争優位がなおも維持されているのか。それはコスト・ペナルティによって新興国で部品の国産化率を増大させると自動車製造コストが増大しているからである。たとえば国産化率10%の時に車両製造コストが300万円だったものが、国産化率を30%に増大させると400万円に増大する。その結果として、国産化率を高めた国産車価格が輸入車価格よりも高くなり、国民の経済的厚生を減じることとなる。そこからは、当該国政府が部品国産化規制を強める前に部品産業の育成を優先的に図ることが重要であるという示唆を得ることができる。

自動車産業における部品国産化ライフサイクルは次の三つのプロセスから成る。第一に、新興国においてコスト・ペナルティが働く前に存在するコスト・リダクションプロセス(部品国産化に伴って部品総コストが減少する過程)である。

第二は、2000年代以降の新興国における部品産業の発展の下、新興国から先進国への部品の輸出が増大する中で、コスト・ペナルティ・カーブが、すなわち国産部品使用に伴うコスト増大プロセスが先進国でも生じている。

第三に、上述したコスト・リダクション・プロセスとコスト・ペナルティ・プロセスという二つのプロセスの間に存在するペナルティ転換点の位置の移動、およびこの二つのプロセスから成り立つ一つのコスト・カーブの全体像の変化を体系的に描き出すことが可能である。



昨年11月に当部会で講演して頂いた時の塩地先生

## 蘇東水先生との再会

文：松田 憲明(産業部会 幹事)

昨年 11 月に中国南京での「world water vally forum」に参加しましたことは、会報 14 号でお伝えした通りですが、南京に向かう途中 部会長望月と幹事の私は IFEAMA 初代会長野口先生の門下生である 千金 河海大学教授( IFEAMA 常任幹事)にご案内頂き、IFEAMA 設立のキーマンであった元復旦大学教授 蘇東水先生の上海のご自宅を、野口先生が生前お会いしたかったが願い叶わなかったお気持ちをお伝えすべく訪問しました。

蘇先生は 90 歳を超えられ車いす生活ですがお元気で奥様 ご子息 ご令嬢に囲まれお幸せな日々を過ごしておられました。故野口先生のお気持ちをお伝えし色々と思い出話が尽きない楽しいひと時を過ごしました。

蘇先生は現中国(上海) IFEAMA 会長 world water vally forum 実行委員長 張 陽河海大学教授の恩師でもあります。

蘇先生から先生がお書きになった論文集を記念に頂きました。貴重な文集ですので、野口先生の母校 慶応義塾大学図書館に寄贈の予定です。

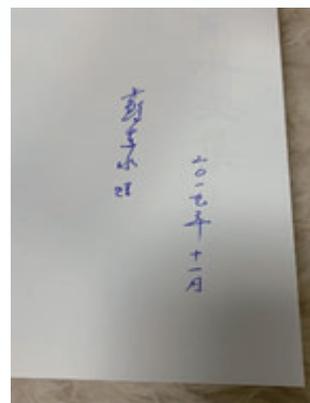
中国と日本の深いつながりこれからもこの財産を継承していく責任を深く認識させられた訪問でした。



『蘇東水文集』



→右より、千金 河海大学教授、蘇東水先生、望月 蘇東水先生奥様、ご子息、後列 松田 憲明氏



蘇東水先生の自署

## Topics >> 会員紹介

ちのね りょう  
◎千野根 陵氏



高崎商科大学 松永教授のご紹介で産業部会へ入会する機会を頂きました。私は慶應義塾大学大学院政策メディア研究科の後期博士課程に在学しており、同時に REMI 株式会社を設立し経営しています。大学院では主にインターネットマーケティングや起業論を中心に研究しています。設立した会社では、Web 関連の集客支援のコンサルティング、ビッグデータ構築に関するセミナーの開催及び企業向け Web サービスの受託・制作をしております。大学卒業から現在まで IT 領域と関わる業務を遂行してきました。振り返ると Twitter では広告営業、Livesense では事業企画マネージャー、DeNA のメディア Find Travel では事業開発マネージャーなどをしてきました。職を転々としていて一見一貫性がないようなキャリアにも見えるかもしれませんが、インターネットに関連する事業に幅広く携わり実務経験を積んできました。現在はそれらの会社を退職し、独立して 2 年近くが経過しました。支援する会社や過去の職場では、とりわけ理論的かつ戦略的アプローチに弱いという課題を常に感じておりました。

産業部会を通じ、大局的でより戦略的な視点を身につけ、実務や社会に活かせないかと考え参加させて頂いております。アカデミックにおける最新の経営理論を先生陣から学び、かつ実業界の第一線の先生陣から経営の生々しいお話を聞きながら毎回刺激を受け、日々の研究をより研鑽できないかと考えております。これからも積極的に産業部会に参加し、新しいことを学習・実践それらを論文としてまとめて発表できればと考えておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

## 【次回 サロンのご案内】

- 日程：2020年 5月 22日(金)
- 時間：18時30分～20時30分(予定)  
受付は18時より開始
- 会場：明治大学 駿河台キャンパス  
リバティータワー1076教室(7階) ※予定
- 講演者：那須野 公人氏(作新学院大学教授)
- 講演テーマ：  
『アジア・アフリカ企業のリープフロッグ的發展』



- 申込方法：参加ご希望の方は、下記メールもしくはお電話にてお申し込みください。
- 産業部会事務局(担当：飛田)  
E-mail: info@ifeama-jis.com、 TEL:090-3596-7910(当日連絡先兼用)  
ご連絡時に、ご氏名、ご所属(会社名など)ご連絡先をお伝えください。

### S 会報誌バックナンバーのご紹介(主な内容)

- ・第14号 第10回サロン『太平洋諸国の放置車両の解決のために』塩地 洋氏(京都大学経済学部教授)  
(2020年1月発行)  
『あるIT企業の成長・挫折再生カリスマ経営者を支えた視点から』
- ・第13号 第4回年次総会の報告及び総会講演の内容  
(2019年7月発行)  
『あるIT企業の成長・挫折再生カリスマ経営者を支えた視点から』  
福山 義人氏(株式会社マネジメント・サポート代表取締役社長、元CSK HD代表取締役社長)  
『アジア企業と日本企業製造業における経営課題』 板垣 博氏(武蔵大学教授)
- ・第12号 第15回東連国際大会(京都大会)の報告  
(2019年7月発行)
- ・第11号 第8回サロン『日本の製造業は生き残れるか-グローバル化とM&Aの視点から-』  
三井 一郎氏(元小松フォークリフト代表取締役)  
(2019年4月発行)
- ・第10号 第7回サロン『民事再生を申し立て会社がなぜ自主独立再建できたか』  
齋藤 元誉氏(ライフ株式会社 代表取締役社長)  
(2019年1月発行)
- ・第9号 第3回年次総会の報告及び総会講演の内容  
(2018年10月発行)  
『中小製造業の未来と栃木精工の戦略』 川嶋 大樹氏(栃木精工株式会社 代表取締役社長)  
『美容業界の今後とM&HSグループ戦略』 村山 利憲氏(株式会社 代表取締役社長)
- ・第8号 第6回サロン『これからの東アジア取引の在り方 - 台湾の事例を中心に-』

### 【編集後記】

新型コロナウイルスが世界を席卷し、各国で自宅待機命令が発動されリーマンショックを超える影響が出てきており、更には未だにその終焉が見えない状態が続いております。その状況下において、2月のサロンを中止せざるを得なかったことは、皆様にご迷惑を申し上げます。来年、東連国際大会が開催されるロシアから年賀状が届き、ロシアでも産業部会が立ち上がる動きがあります。今後、グローバルでネットワークや交流の場が広がることを期待(希望)しながら、今直面しているウイルスとの戦いを制していく所存です。皆様とは、5月のサロンで、あの時の苦勞話が笑顔で語り合えることを切に祈願しております。このようなご時世ですので、どうぞご自愛ください。

次回サロンは5月22日(金)、また総会・講演会は8月22日(土)を予定しています。皆様やご友人の方のご参加をお待ちしております。

- 発行責任者：望月邦彦(産業部会 部会長)
- 発行日：2020年4月
- 各種お問い合わせ先：産業部会事務局 幹事：飛田
- E-mail: info@ifeama-jis.com
- Home Page: <http://www.ifeama-jis.com/>